



皆さんこんにちは！

地域おこし協力隊1年目の星野壮祐です。

今月の集落支援だよりでは、西会津中学校のアントレプレナーシップ教育発表会や町を訪れた大学生の活動についてお届けします。



地域おこし協力隊 集落支援担当
ほしの 星野 壮祐 隊員

アントレプレナーシップ教育発表会を開催！

西会津中学校で10月5日に行われたアントレプレナーシップ教育の発表会に参加してきました。アントレプレナーシップ教育とは、起業家的な精神や資質、能力などを育む教育のことです。

西会津中学校の生徒の皆さんは、町の課題を自分たちで発見し、どのように解決するべきかを武蔵野大学の学生に伴走支援してもらいながら考えました。

発表会は、西会津中学校多目的ホールで行われ、5〜6人の班で7つに分かれて、それぞれが考える町の課題やその解決策を発表しました。「快適な勉強場所を作りたい」「駅を町のシンボルにしたい」「活気ある商店街を復活させたい」などさまざまなアイデアが出ました。西会津で生まれた育った中学生の皆さんの発想は、移住者の私にはないものばかりで驚かされるが多かったです。

芸大生が山で展示会

武蔵野美術大学や東京芸術大学の一部の学生で構成された団体「やどりぎ案内」が町を訪れ、作品展示を行いました。植物で布を染める「草木染め」という技法で作られた布製の作品を木の枝などに括り付けて展示し、訪れた町民の皆さんと触れ合いました。



今回展示された作品

また、集落支援員の岩橋義平さんに案内され、町内の廃校となった校舎を見学し、その活用事例について学びました。かつて学校だった面影を感じながら、楽しく学んでいる様子が見られました。

医大生が困りごと解決

東北医科薬科大学から2人の医大生が奥川地区を訪れました。普段から大学で地域医療を学んでいる2人は、地域の住民がどんな生活をしているのかについて関心があるとのことでした。

まずは、集落の住民と一緒に落ち葉拾いをし、集落の景観維持活動に取り組みしました。その中で、学生の皆さんは初めて木になっている柿を取って食べるという経験をしました。甘い柿しか食べたことがなかった2人は、食べた渋柿の味に驚きを隠せず、集落の皆さんもその様子を見て楽しんでいました。



落ち葉拾いの様子

ほかにも、これから冬を迎える西会津町では雪囲いの設置をするのが大変だという住民の声があり、その設置の手伝いも一緒に行いました。「雪囲い」というものを初めて見た学生たちは、地域住民との交流を楽しみながら作業をしていました。



雪囲いを設置する医大生

今回、集落の日常を体験した東北医科薬科大学の小川泰佑さんは、「貴重な体験ができました。また、年が明けたら来たいと思います。」と話し、西会津町での生活を堪能できた様子でした。